

新国立競技場の建設予定地は17日、東京都新宿区で、本社へ「あさる」から



新国立ドタバタ劇検証

新国立競技場（東京都新宿区）の工費は、なぜ2520億円に膨らんだのか。早めの軌道修正は不可能だったのか。計画に携わった当事者らの無責任と不作為の連鎖を立案、発注、政治判断という三つの角度から振り返った。（森本智之、沢田敦、我那覇圭、①面参照）

陳情合戦 加算で巨大化

①立案

有識者会議など

二〇一二年三月にスタートした有識者会議は、新国立競技場をどんなスタジアムにするか、計画作りを二から担っていた。メンバーには利害関係者がずらり。議事録などによると、その議論はさながら陳情合戦の発「などの発言も出た。

「開閉式屋根はマスト」「八万人規模がスタートライン」「ホスピタリティ機能も充実を」。日本を再生する起爆剤「プロードウェーを超える地域開発」などの発言も出た。

「全部単純に計算すると規模的に不可能になる」という困惑すら上がった。

しかし、要望はほぼ全て組み込まれた。その数、百二十八項目。議論開始から四月後、ロンドン五輪の

三倍という延べ床面積二十九万平方メートルの巨大スタジアムの概要が決まった。

「多目的は無目的。今考えればそういうことかもしれない」。文部科学省幹部は振り返る。施設規模は後に二十二万平方メートルに縮小されたが、五輪史上最大規模に変わりはなく、建築家の槇文彦氏は「この規模の大きさが問題の根源」と指摘する。

続くデザインコンペは応募期間二カ月、審査に二カ

月しか余裕がなかった。審査委員長の安藤忠雄氏が自身のつてを頼りに直接メールで応募を呼び掛けるほどのドタバタだった。

当選した英国在住の建築家ザハ・ハディド氏のデザインについて「（巨大アーチ構造は）かなりコストがかかる懸念はある」と指摘する委員もいたが、安藤氏自身、今月の会見で「徹底したコストの議論にはなっていないかった」と認めた通り、デザインの斬新さはありがたみされた。

実は当時、応募作品が本

で、建設費について「国民一人当たりに換算すれば一杯飲みに行くくらい費用。ちまちまけちる」とはならない」と豪語している。

だが、その後の建設計画は文科省に任せていた。

しかし、政府関係者によると、首相の盟友である麻生太郎財務相は、複合的な機能を持つ施設として計画が進んでいく様子を見て「建設費が高くなるぞ」「国民負担が大幅に増える」と再三、首相に警告していたという。

官邸サイドがこうした声に反応し、主体的に工費抑制に動いたとは言い難い。首相が下村氏に対し、計画を見直せないか検討を指示したのは、今月十七日にゼロベースでの見直しを表明する一カ月ほど前。遠藤利明五輪相が就任した六月二十五日深夜には、麻生氏が都内にある首相の私邸を訪ね、約一時間半にわたって会談した。

無責任の連鎖

当事者意識 危機感薄く

②発注

文科省とJSC

新国立競技場の事業主体、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）が昨年五月、基本設計

を公表した際の予算は千六百二十五億円だった。しかし同年十月には、槇氏ら建築家グループが工費が二千

五百億円に達するとの試算をまとめた。

所管する文科省の動きは鈍かった。今年二月上旬には、ゼネコン側から「工費が三千億円超、完成も一九年九月のラグビー・ワールド

カップ（W杯）に間に合わない」と提示されたが、JSCに調整を指示しただけ。その後もゼネコン側との交渉をJSCに任せきりにした。下村博文文科相に調整不調を報告したのは四月だった。

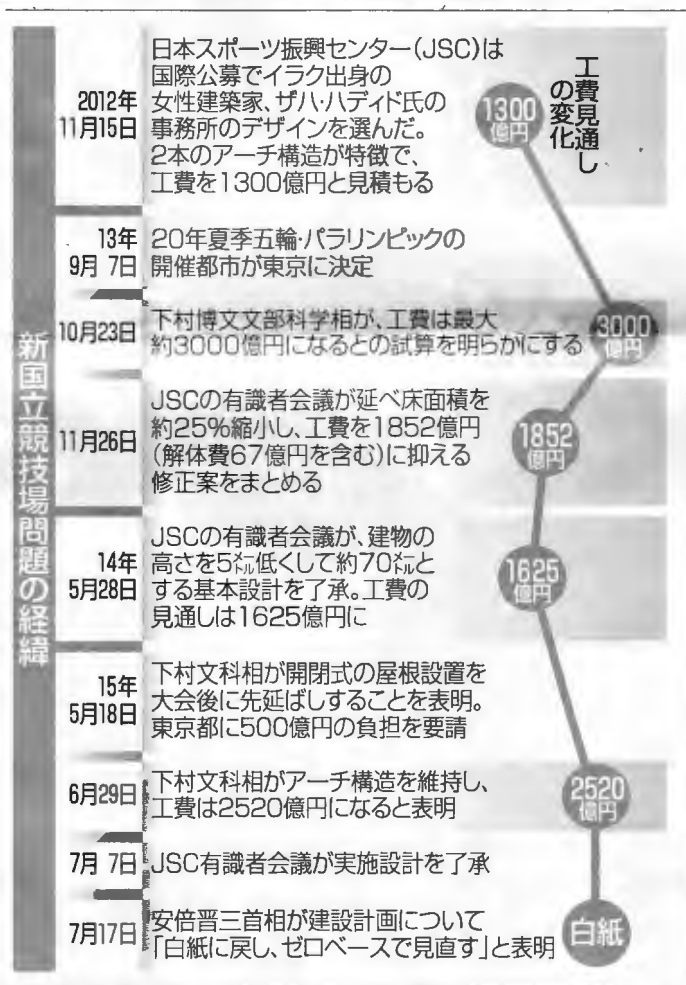
巨額に膨らんだ工費への危機感が省内に薄かった。ある同省幹部は「W杯に間

国立競技場の将来構想を議論するため、日本スポーツ振興センターが2012年3月に設置した。現在のメンバーは次の通り。（いずれも敬称略、※＝委員長）

安西祐一郎（日本学術振興会理事長）
安藤忠雄（建築家）
小倉純二（日本サッカー協会名誉会長）
佐藤禎一（元文部次官）※
鈴木秀典（日本アンチ・ドーピング機構会長）
竹田恒和（日本オリンピック委員会会長）
張富士夫（日本体育協会会長）
都倉俊一（作曲家、日本音楽著作権協会会長）
鳥原光憲（日本障害者スポーツ協会会長）
馳浩（スポーツ議連事務局長）
舩添要一（東京都知事）
森喜朗（大会組織委員会会長）
横川浩（日本陸上競技連盟会長）
笠浩史（大会推進議連幹事長代理）

新国立競技場のデザイン選考のため、日本スポーツ振興センターが設置した。2012年10～11月に審査し、応募46作から英国在住の建築家ザハ・ハディド氏の作品を選んだ。メンバーは次の通り。

安藤忠雄（建築家）※
鈴木博之（故人、建築家、青山学院大教授＝当時）
岸井隆幸（建築家、日本大教授）
内藤廣（建築家、元東大副学長）
安岡正人（建築家、東大名譽教授）
小倉純二（日本サッカー協会名誉会長）
都倉俊一（作曲家、日本音楽著作権協会会長）
河野一郎（日本スポーツ振興センター理事長）
リチャード・ロジャース（英国人建築家）
ノーマン・フォスター（英国人建築家）



③政治判断

首相

見直し提言に鈍い反応

首相の公務終了後、閣僚が私邸を訪ねるのは異例だが、この段階でも首相は見直しを完全に決断していなかった。

政府高官は「五輪が決まっ

たが、その後の建設計画は文科省に任せていた。

しかし、政府関係者によると、首相の盟友である麻生太郎財務相は、複合的な機能を持つ施設として計画が進んでいく様子を見て「建設費が高くなるぞ」「国民負担が大幅に増える」と再三、首相に警告していたという。

官邸サイドがこうした声に反応し、主体的に工費抑制に動いたとは言い難い。首相が下村氏に対し、計画を見直せないか検討を指示したのは、今月十七日にゼロベースでの見直しを表明する一カ月ほど前。遠藤利明五輪相が就任した六月二十五日深夜には、麻生氏が都内にある首相の私邸を訪ね、約一時間半にわたって会談した。